

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	5
サポートクラス	チューシ	Lv.1:	ニンジャ	性別	男
称号クラス				年齢	17
種族	ヒューリン			境遇	義理の親
出自(効果)	冒険者			目標	憧憬

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	9	9	16	9	11	6
ボーナス	3	3	3	5	3	3	2
クラス修正	0	1	0	2	1	1	1
他修正							
能力値	3	4	3	7	4	4	3

HP	46
MP	65
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	手提げバッグ								
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	華服					4			
補助	封精長靴								
装身具	封精韋編								
能力値			4	0	3	0	4	7	8
スキル									
その他									
総計(右)			4	0					
総計(左)			4	0	3	5	4	7	8
総計(両)			4	0					m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	7			7	+ 2 d
アイテム鑑定	7			7	+ 2 d
魔術判定	7			7	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
ベルトポーチ	調理用具
バックパック	
異次元バッグ	ポーションホルダー
小道具入れ	▼HPP*2
▼ロープ	▼MPP*3→2→1
▼ランタン	MPP*3→0
▼虹の輝き	
父さんが残した巻物	ランチボックス
母さんが残した手帳	▼にく*3
	▼野菜*2→1→0
野営道具	

現在重量:	21	所持金:	5489	預金・借金:	
最大重量:	25				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ハーフブラッド	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果: タイミングがメイキングのヒューリン以外の種族スキル一つを修得。ただし幸運基本値-3								
マジシャンズマイト	1	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
ファイアロード	5		パッシヴ		自身			
効果: <火>魔法攻撃ダメージ+[SL*4]								
コンセントレイション	1		パッシヴ		自身			
効果: 魔術判定+1D								
ファイアボルト	1	(6-1=)5	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果: 魔術。[3D+30]<火>魔法ダメージ								
リゼントメント	1		効果参照		自身		1/シナリオ	
効果: 単体※に変更しダメージ+[CL*10]								
フライト	1	(4-1=)3	メジャー	至近	単体	魔術判定		
効果: 魔術。飛行状態にし移動力+[SL*5]m。シーン持続								
	1							
効果:								
ハンドシンボル:爆	2	4	ムーブ		自身	自動成功	SL/シーン	
効果: 単体の魔法攻撃を「範囲(選択)」に変更								
ファイアクラップ	1	(4-1=)3	マイナー		自身	自動成功		
効果: 魔術。<火>魔法ダメージ+[SL*2]、[威圧]付与								
	1							
効果:								
ファストイート	1	2	セットアップ		自身	自動成功		
効果: 食糧、料理のアイテムを1個使用								
ダムウェイター	1	5	メジャー	20m	[SL+1]	器用		
効果: 料理のアイテムを対象に使用								
ドクターシェフ	1		効果参照		自身	自動成功	SL/シーン	
効果: HP,MP回復を行うスキル、アイテムと同時。CL以下のレベルの料理を1個使用。効果に[「レベル」×4]								
	1							
効果:								

CL1 ハーフブラッド:イモータリティ ファイアロード2 コンセントレイション ハンドシンボル:爆2

冒険者の両親をもつ少年。
 父親は冒険者で世界を飛び回っていたが、母親と出会い、PC①が生まれてからは、両親ともにアークライトを離れることはなくなった。
 職業冒険者なので冒険に出ることはあり、そういう時は叔父夫婦に預けられていた。
 物ごころついてからは、自分も冒険に行きたいと言ったが、体力がついてこなかったのだ。
 そして10年前の【大漂流】の前に両親は行方不明となり、叔父夫婦の下で料理人見習いとして働いている。
 もっと自分に体力があれば。あるいは、それを補うだけの何かがあれば、両親と一緒に旅できたのだろうか。

一方で、父親の話してくれる冒険の話は、いつも未知に溢れていて、ワクワクが止まらなかった。
 いつか自分も見に行くのだと思っていたのに、【大漂流】で世界は閉ざされてしまった。
 なんてことだろう。あんなに世界は広がったのに。

そうした思いを胸に、少ない体力を補うように魔術を身に着け、叔父夫婦の下で料理を覚えた。
 冒険者のパーティになってくれそうな大人にも目星をつけた。
 準備は着々と進めてきた。

だからそう、あと少しきつかけさえあれば、冒険の道に足を踏み出すこととなるのは、必然だったのだ。

「僕は行くよ。まだ見ぬ場所へ。両親が旅した、その先にだって」
 「元気の源は食！ さあさあ自慢の一品だよ、食べていきな！」
 「(指パッチン)はい、どーん！」(《ファイアボルト》演出)

